

LED照明付テラリウムでのコケ植物の育成

内野敦明・内野ちさと (Mosslight-LED・株式会社イーエスプランニング)

はじめに

コケは他の植物と違って肥料を必要としないので、光と水だけで育てることができます。近年、LED光源の進化でランプサイズがコンパクトになり、高照度で演色性が良くなり、ガラス容器の中でコケを育てコケを鑑賞することが可能になってきました。そこで2013年から試作品を作成し、インテリア空間でスタンドライトとしての機能も果たしながらコケ植物で癒しを提供していくことを目的として、コケ植物を育成していく手法を確立してきましたので、今回はそのテラリウムの制作と育成方法を発表します。



Mosslight-LED

方法

① テラリウム容器の製作

2013年にガラス容器(花瓶)と市販のLEDダウンライト照明器具(消費電力6.5w 色温度5000k 演色性Ra85)を購入しLED照明付テラリウムを完成させた。紫外線も少なく、熱も前面にでないので熱損傷が無い。

② コケ植物テラリウムの製作

まず底砂を1cm敷き、次に土を焼き固めた小粒のソイルを2cm敷く。そこに石や木片をレイアウトし、数種類のコケを植える。(ホソバオキナゴケ・ヒノキゴケ等)

③ 一日に8時間LED照明を点灯させ、一週間に一回の霧吹きをおこなう。

④ 容器内の温度が上がらないように直射日光を避け、出来るだけ涼しい場所に置く。

結果

制作して3ヶ月後に安定し成長が始まる。4年前に製作したホソバオキナゴケのテラリウムは、いまま成長しつつけており、コケの朔が咲くのがみられ、テラリウムの環境に合って育ったコケはすごく綺麗で癒される。

課題は、夏場に容器内の温度が24度以上になると湿度が高いために蒸されてカビが発生するおそれがあること。室温を下げるなど、温度変化の少ない場所で育成するのが望ましい。

また山取りしたコケや腐葉土などを使うとキノコやシダ、マル虫など出てくる可能性があり、苦手な人は市販のソイルやコケを使用した方が良い。

まとめと考察

コケが一番綺麗に見えるのは日の出の2時間後の光に照らされた時で、間接光で照度が2000Lxの明るさです。朝露を浴びたみずみずしい葉の透明感のあるモスグリーンは何とも言えない美しさがあります。今回のLED照明付テラリウムは、それと同じ環境を再現できており、観賞にも最適です。Mosslight-LEDで楽しむことで自然に興味をもち、自然を愛する人達が増えることを夢見しています。



展示：日本文化を育んだ自然